

167 「夢の細道」から「地獄の細道」へ

名大に学部から入学したのであれば、入学手続きの後、多くの体育会運動部や文化サークルなどの説明・勧誘ブースが続く道、いわゆる「地獄の細道」を知らない人はほぼいないでしょう。現在は豊田講堂で、全学新生歓迎実行委員会の運営によって行われる、名大の伝統行事の一つです。

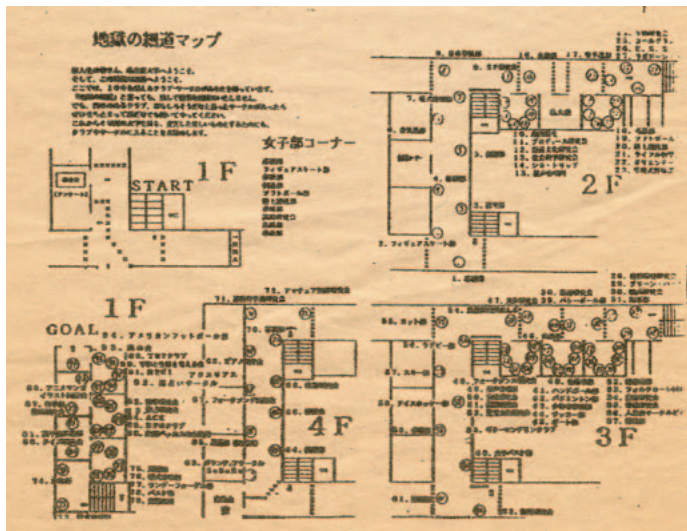
ただ、この「地獄の細道」のこれまでの経緯は、実はほとんど分かっていません。今回は、名古屋大学体育会の機関誌『濃緑』の記述などの数少ない史料から、その歴史を少しだけひもといてみましょう。

『濃緑』の体育会年間行事欄に初めて登場するのは、1975(昭和50)年からです。それまでは、年度最初の行事としては、入学式が終わった後のオリエンテーションしか書かれていませんでした。これは、部やサークルが順番にアトラクションや寸劇を演じて、自分たちを紹介するものでした(現在も「入学祭典」として行われています)。それ

が1975年には、入学手続きの日に「夢の細道を通ることになります」と書かれています。当初は地獄ではなく「夢」の細道だったのです。

「地獄」になったのは1980年からです。この年の『濃緑』には「戦慄の地獄の細道を通る新生入生に、各クラブからあれやこれやの誘いの手が。新生入生にとって、最良の日!!」と記されています。名前が変わった理由はよく分かっていません。ただ1970年代は、運動部の成績がふるわなくなり、同時に運動部に入る学生が減少したうえ、レジャーの多様化により部やサークルの数も増えた時代でした。新生入生の争奪戦が激化したことが考えられます。

以前は、全学教育棟(旧教養部棟)の中で行われていました。狭い廊下と教室に勧誘ブースが一本道に延々と続く様子は、まさに「細道」でした。現在も、新生入生の通り道が細いのは相変わらずですが、同じ空間を行きつ戻りつしており、迷路のような印象もあります。



1	2	3
4	5	

- 1 1992年の「地獄の細道マップ」。教養部棟の1階から4階まで細道が続いている。100を超えるブースがあり、全部通過するには1、2時間はかかると書かれている。
- 2/3 1988年の様子(同年の生協入学アルバムより)。
- 4/5 2015年3月の様子(全学新生歓迎実行委員会提供)。4は豊田講堂1階ホワイエ、5は同1階ロビー。そのほか、同2階ギャラリーにも細道があり、ブースを出している団体は140にも及ぶ。